

平成28年度第2回伏見区基本計画推進区民会議

日時：平成28年11月29日

場所：伏見区役所4階中会議室

1 開会、伏見区長挨拶

朝晩の冷え込みが厳しく、いよいよ師走を迎える。本日は、平成28年度第2回伏見区基本計画推進区民会議にご出席いただき、感謝申し上げます。また、橋爪紳也座長並びに、この度藍綬褒章を受章された村井信夫副座長をはじめ、皆様には、日頃から広く、伏見区政の推進のため、何かとご理解・ご協力を賜り、心より御礼申しあげます。さて、今年を振り返ると、4月に熊本で震度7の地震が2回も起き、8月には台風10号が東北と北海道を直撃し、先月には鳥取県で震度6の地震が起きた。ここ伏見区でも9月に局地的豪雨により大手筋通などで床下・床上浸水の被害が生じ、桃山をはじめ6学区に土砂災害の危険から避難勧告・避難指示が出された。改めて、区役所としても安心安全のまちづくりの大切さを痛感している。そんな中、基本計画を着実に進めるため、幅広い区民の方々のご意見をお聴きするこの会議では、災害に強いまちづくりと地域防災の取組をはじめ、世界一安心安全の運動、また、健康長寿・子育て支援の取組、さらに伏見区区民活動援事業や重点戦略・融合プロジェクト等について、取組状況をご報告させていただく。

皆様には、本日の会議が実り多きものとなるよう、率直なご意見をよろしく願います。伏見区役所としても、私、岩井、三宅の3区長を先頭に、皆様の思いがかたちにつながっていく、また、安心安全で住みよいまちづくりを、進めてまいりたい。

2 委員紹介

事務局から新任委員、欠席委員を紹介

3 橋爪座長挨拶

本日、第2回基本計画推進区民会議の開催にあたり、冒頭に村井副座長が藍綬褒章を受章されましたので、お祝いの拍手をお贈りしたい。

本日の会議は、安心・安全、長寿・健康、子育て支援と従来の政策と変わってきているが、「長寿」や「健康」は全国的にもキーワードとなっており、より重要になっている。安心安全については、慶長の大地震によって崩れたと言われる、幻の指月城が昨年発掘された。私たちは何百年も前から絶えず、地震や水害など様々な災害にさらされてきたが、それらに備えていくことが大切である。

来年から再来年にかけて、大政奉還～明治維新150周年を迎える。鳥羽伏見の戦いでは、伏見も戦災で焼け野原となったが、そういう記憶を伝えていかなければならない。日本各地で様々なイベントが企画されているが、伏見がこの節目をどのように迎えていくのか、

この会議でも注目していきたい。

4 報告・意見交換等

(1) 地域防災の取組について 事務局から説明

中野委員

天ヶ瀬ダムの特ネル式の放流設備について、大雨が降り、ダムと特ネルの両方が満杯になってしまったとき、下流に放流せざるを得ないのではないか。その場合、下流地域はどうなるのか心配だ。

また、橋りょうについて、大地震が起きた時、宇治川に架かる淀大橋をつなぐ器具の強度が弱いと聞いたことがあるが、器具の交換はなされているのか。

事務局

天ヶ瀬ダムについて、特ネルには一時的に水を貯める効果もあるが、ダムが満水になる前に河川の水量を把握した上で放水し、水位を適正に調整するものである。満水になったからといって、すぐに放水するわけではない。全体の水量のバランスを考慮し放水する計画であると聞いている。

橋りょうについて、報道があったことを承知している。現在、詳細を把握できていないので、調べて別途報告する。

中野委員

説明を聞いてもはっきりしない。ダムと特ネルの両方から一度に放水したら、下流地域に暮らす者はどうしたらよいのかと懸念している。

事務局

満水にならないように、事前に効果的に調整することが目的。それをダムの門だけでなく、特ネルも使い、柔軟に対応するということである。

中野委員

満水にならないように放水するであれば、特ネルを作らなくてもよいのではないか。

事務局

一つの大きな口ではなく、特ネルを作って水量を調節しながら放流できるシステムである。

久保委員

天ヶ瀬ダムへの工事は3年前の台風18号の際に向島、淀、淀南が厳しい状況になりかけたことを受け、まずは天ヶ瀬ダムの上流に放水路を作り、次に下流の宇治、淀、向島の堤防工事を行っていくという計画と聞いている。その工事を速やかに国に終えていただいて、下流の対策を取ることを要望している。

中野委員

満水にならないようにトンネルの中にも水を蓄えるのは分かるが、ダムとトンネルどちらも満水になったらどうなるのか、疑問は残る。

橋爪座長

かなり技術的な話もあるので、個別に回答いただく対応でどうか。

小倉委員

指定避難所一覧について、3年前の台風18号で避難所自体が水に浸かった場所がある。例えば、701名の収容人数を持つ伏見港公園は実際には使えなかった。その場合、代替場所はあるか。避難所にさえ行くことができない場合は、どうしているか。

事務局

水害の場合は学校校舎等の2階を使う運用をしている。実際にその避難場所へ行くことができない事態を想定して、民間施設の高層階を緊急の避難所として開設する協定を結ぶ学区もある。まだ全ての地域で実現できてはいないので、今後増やしていきたい。

小倉委員

各地域で、自分たちで協力してくれる場所と話をしなければならないのか。

事務局

行政も参画・連携しながら、そのような取組を進めていきたい。

村上委員

今年の暮れから来年にかけて、大手筋のアーケードのカラー舗装を行っている。雨水対策の計画とあるが、それにより、整備した場所をひっくり返すようなことが無いようにしていただきたい。どの場所の対策工事になるのか。

事務局

9月28日には大手筋とその周辺で浸水があった。国道24号から竹田街道までが坂道

になっており、水が貯まりやすいため、バイパスを作る。最終的には、伏見水環境保全センターへつないでいき、大規模浸水が起こらないようにしたい。

久保委員

竹田街道西側の地点から工事を始めたいと聞いている。アーケード、舗装への影響は出てこないと思う。

田中委員

地震や水害に関する個別の取組は大事であるが、伏見が京都盆地のどういう地形にあり、鴨川や琵琶湖疏水、宇治川（人工河川）などの河川が集中した地域であることを知ってもらう必要がある。伏見港公園などの中心市街地が水没したこともあり、このような地域特性を市民に知ってもらうことが最大の防災ではないか。昭和28年に中書島の堤防が決壊した時には、巨椋池が再現されたような状態になった。そうした意味では堤防は非常に大切で、水が来るところだという場所だと認識しなければならない。

橋爪座長

ハザードマップを見ても区のほとんどの地域で震度6強の可能性があり、3m以上浸水の可能性がある地域も広い。これは大都市では非常に稀な地域。災害は起こるものだ、という認識のもとで暮らしていく必要がある。

（2）安心・安全の取組について

事務局から説明

橋爪座長

アンケートに関して「(伏見の治安が) 悪いと思う」が22.6%となっており、なかなか厳しい結果である。

（3）健康長寿・子育て支援の取組について

事務局から説明

三木委員

子育て支援について、伏見いきいき市民活動センターでは、子どもの貧困に関する相談件数が4倍近くになり、市民の関心の高まりを感じる。区内でも「子ども食堂」など地域での取組が始まっている。醍醐では先進的な活動が行われているようだが、伏見全体として取り組んでいることがあれば教えてほしい。

事務局

子どもの貧困対策は大きな課題と捉えている。各地域で子どもの貧困対策を視野に入れた居場所づくりの普及を行っていただけるよう、来年度はそのきっかけづくりとして連続講座等を開催して呼びかけ、地域の協力をいただける雰囲気づくりをしていきたい。

(4) 伏見区区民活動支援事業及び融合プロジェクトの取組について
事務局から説明

加藤委員

審査会では、非常に熱心に審査をいただき、内容のある事業が採択された。いずれも、区民がこれまで蓄積して来たものを発揮して、提案していただいている。小規模枠についても、申請件数が増えているが、応募しやすさが成果につながったのではないか。小規模枠、一般枠ともに地域に根ざした現在の課題に沿った内容になっているが、引き続き、裾野を開拓していく必要がある。

また、限られた予算の有効活用についてはアクセントが必要ではないか。本日ここまで熱心に議論してきた地域防災、健康長寿、子育て支援等に関して、重点を明示して募集する仕組等について検討いただきたい。

事務局

加藤委員のご指摘は重要なことだと認識している。より積極的にたくさん応募していただけるよう制度の改善・見直しを検討していく。

橋爪座長

次年度検討いただくようお願いする。

田中委員

「伏見・お城まつり」は、多くの参加者が集まり良かった反面、伏見の地場産業の日本酒が飲めなかったことが非常に残念だったと聞いている。伏見の祭で伏見の酒が飲めないのかという疑問を感じる。先日、市役所の前でお酒のイベントがあったと聞き、伏見でも実現できないものか。

文化庁移転については、一極集中を避ける地方創生の趣旨からすると、洛中の真ん中ではなく、安土桃山時代発祥の指月城、桃山御陵の森等、歴史的にも重要な拠点であり由緒ある伏見に移転させるというスタンスもよいのではないか。

事務局

「伏見・お城まつり」は実行委員会が主催しているので詳しく分からないが、スポーツ

施設としての管理の中で、お酒の販売が難しいということだと思われるが、別途確認し、お伝えする。

中野委員

避難所についてのお願いがある。淀南学区は避難所が美豆小学校、府立消防学校があるが、府立消防学校が来年4月から無人になると聞いている。淀南学区の住民は、無人になった後、災害に遭い、避難することになった場合、どうすればよいか。鍵の受け渡し、電気、水は通っているのか。すでに区役所、市長にも伝えているがこの場でみなさんにも知っていただきたい。府施設ではあるが、市にもしっかり対応してほしい。

久保委員

今後は、府下の消防団の研修施設として引き続き使われる予定であり、完全な廃止ではないと聞いている。ただ、常時職員がいるわけではなく、夜間・土日に詰める職員がないので、その場合の対応について地元の皆様と話し合い、対応していく必要があると認識している。

中野委員

消防学校が常時使われないのであれば、屋外訓練場などを地域住民のスポーツなどの活動の場に使用してもらえないかという声がある。

久保委員

京都府とも協議させていただく。

岩井委員

9月台風の時に土砂災害の避難指示が出た。小栗栖宮山だが、土砂災害の時と水害の時に避難すべき場所が異なり、よく間違えられる。その場合、間違えて来た方への対応をどうすべきか。学校に誰かがいて、避難者に伝えなくてはいけないのではないかと、など今回の件で勉強になった。二通り避難所がある場合どうしたらよいのか。区役所はどのように考えているか。

橋爪座長

水害と土砂災害の違いが分かりにくいので早急に検討すべきではとの指摘だが。

三宅委員

9月28日に避難指示を醍醐管内で3カ所出し、避難所を設置した。今回は土砂災害での避難指示であったが、3年前の台風18号の経験の恐怖があったため、土砂災害の危険

の無い地域からも多くの避難者が集まった。避難指示が出ると衝撃的な内容のメールが携帯電話に届くが、それが土砂災害による指示なのか、山科川の水位の上昇によるものなのか、一通のメールでは分かりにくい。住んでいる場所と危険の内容をいかにきめ細やかに伝えたらよいのかということが今回の大きな課題だと認識した。本庁の防災危機管理室や地域の自主防災会などとの連携を改めて進めたい。

土田委員

来年度、伏見工業高校が廃校になる。ここは砂川学区と稲荷学区の避難所になっているので、伏見工業高校に避難できる人数を知りたい。

事務局

学校の形態が変わって行く状況で、体育館を避難所に想定し、462名が収容できるとしている。今後、体育館の改築などありましたら、お知らせする。

高橋委員

ハード面を一生懸命整備していただいていることが分かった。ただ、アナログで生活している人も多く、地図も読み切れない人もいる。高齢者、障害者もいる中、地域の力が重要になってくる。なにか起爆剤が欲しいと思った。商店街のカラー舗装にあたっては、雨が降って滑らないような配慮をお願いしたい。

5 閉会、村井副座長挨拶

この伏見区基本計画推進区民会議では、色々な課題があるが、少し間口を広げすぎてしまって、最終的にどのような基本計画になるのか、橋爪座長ともよく相談をしてやっていかなければならない。西日本最大の行政区といわれるこの伏見区を活性化していくためには、いろいろなことがあると思う。ただ、課題がたくさんある中、水害や地震など、地域防災は非常に大事である。先日、藍綬褒章の授賞式場で、当日の多忙により疲れて座っていた私に天皇陛下がいらして「大丈夫ですか」と声をかけてくださった。心のやさしさ、声かけをすることが大事だと感じた。お互いに声をかけ、助け合う、その気持ちを大事にしたい。日常生活の中での声かけの大切さを学んだ。

これからも橋爪座長とも相談しながら、伏見に住んでよかったと思える誇りあるまちにしていくため、改めて皆さんの協力をお願いしたい。